

平成25年度 産学連携事業「大学教員の企業現場研修」の開催結果

情報系人材の育成に向けた産学連携事業を本格的に実施するため、本年度は「キャリア形成支援の教育力向上」、「ノーベーションに関与できる人材育成」をテーマに大学教員の企業現場研修を実施している。本年度実施した4件について以下に開催結果を報告する。

平成25年度 第1回 大学教員の企業現場研修

1. 研修テーマ：システムインテグレータ企業の人材育成を事例を通して学ぶ現場研修
2. 研修目的：システムインテグレータ企業が取り組んでいるプロジェクト事例や課題を学びその上で大学教育に求める人材像について若手社員との意見交流の中からギャップを見出し学生指導に役立てる。
3. 研修企業：株式会社ニッセイコム
4. 開催時期：平成25年9月11日（水）1日間
5. 参加者：14名
6. 参加費：無料

プログラム

- ① **会社概要と事業領域の説明（10:30～11:20）**
株式会社ニッセイコムの企業概要を説明し、システムインテグレータ業界の動向やICT業界における事業戦略等を紹介しします。
- ② **システムインテグレータの業務の現場と実態の確認（11:20～12:00）**
システムインテグレータ企業の営業現場、システムエンジニアの作業の現場などを見て、ICT企業の最新の課題や実態、業務の内容等を紹介し現場の担当者との意見交換を行なう。
- ③ **システム構築事例からSI企業で求められる能力の紹介（13:00～14:20）**
東京国際フォーラム施設予約システム、某企業のネット購買システム(ECサイト)の事例を通じて多様な運用形態、様々なニーズ、個人情報保護、内部統制などの課題を解決してシステム構築していくシステムインテグレータ企業の業務内容、求められる力などを紹介し、SI企業に求められるキャリア形成について意見交換を行なう。
- ④ **新卒採用基準と社員教育プログラム紹介（14:20～15:40）**
新卒採用基準および社員教育プログラムを紹介し、求められる社会人基礎力、専門基礎力などについて人事関係者との意見交換を行なう。
- ⑤ **若手社員との意見交換（15:40～16:40）**
入社2～3年目の社員から「大学の学びが社会で役立っていること」、「大学で学んでおくべきこと」、「大学教育に望むこと」等を発表し、大学教育に求められる取組等について社員の視点から意見交流する中で課題を整理する。
- ⑥ **全体意見交換、質疑応答（16:40～17:20）**
参加者全員による研修の感想、および質疑応答を行ない理解を深める、

7. 実施結果

職場の現場見学やすべての資料を提供いただいたことから受講者の評価は高く、終了後のアンケートでは研修結果が授業改善に役立つ、この研修を他の教員にも紹介したいが100%であった。参考になった点としては、外からは分かりにくいSEの職場や営業職場を見学でき、実態を確認できたことや企業が求める人材像を知ることにより大学での実際の授業で自信を持って講義できる等の意見が寄せられた。

主な意見を下に示す。

- ① 最新の事例を通して企業現場の課題や問題点等を知ることができ講義を行う上で非常に有益だった。
- ② 卒業生がどのように成長していくか、事例発表を聞く中でイメージが持て、指導に活かせる。
- ③ 社内教育の実態を知ることができ、学生が身に付けるべき知識や資格がわかり役に立った。
- ④ 所属学科のパンフレットに「論理的思考力」をうたっているが本当にそれに沿った教育を行っている

か考え直すべきと感じた。

- ⑤ 大学と産業界の間のギャップは深刻と感じている。今後もこのような試みを継続して欲しい。



(事業領域の説明)



(プロジェクト事例の紹介)

平成25年度 第2回 大学教員の企業現場研修

1. 研修テーマ : 次世代の社会システムと最先端 ICT 活用事例の現場情報の研修
2. 研修目的 : プロジェクトを通じて新しい価値創造に取り組んでいる事例を紹介し、その上でイノベーションに関与できる社員教育や仕組みについて紹介する。これらを通して大学教育の見直しを図るきっかけづくりとする。
3. 研修企業 : 株式会社日立製作所
4. 開催時期 : 平成25年9月12日(木)1日間
5. 参加者 : 28名
6. 参加費用 : 無料

プログラム

- ① **事業領域と事業戦略の紹介 (10:00~11:00)**
日立の事業フィールド・事業・事業戦略等について紹介する。
- ② **最先端 ICT 活用事例の紹介と取り組みについてー1 (11:00~12:00)**
ビッグデータの活用によりコミュニケーションを可視化し、組織の壁、関連部門間の連携、チーム内のコミュニケーション、幹部の情報伝達の状況等を分析し、改革へ導き組織力をより高める取り組みの事例を紹介し、参加者と意見交換を行う。
- ③ **最先端 ICT 活用事例の紹介と取り組みについてー2 (13:00~14:00)**
ICTを活用した社会インフラ事例として「ハワイ離島型スマートグリッド実証事業」、「沖縄 EV普及インフラ整備」等の、エネルギー、資源の効率化、環境に配慮したスマート次世代都市、近未来の暮らしのイメージの事例をご紹介する。
- ④ **日立が求める社員教育の紹介 (14:00~15:00)**
社会のイノベーションにつながる日立の社員育成プログラムを紹介する。
- ⑤ **日立の社員に求められる就業力育成と大学教育とのマッチング (15:00~16:30)**
社員が求めている就業力と新入社員(大学教育の成果)の実態を紹介し、大学が取り組むべき教育改善についての意見交換を通じて大学教育の在り方を振り返ることを行う。
- ⑥ **若手社員・管理職による大学教育に対する意見 (16:30~17:30)**
若手社員、管理職からイノベーションに関与できる就業力を獲得するための社員教育、キャリア形成について紹介しその上で大学教育に求められる課題について意見交換を行い大学教育の改善策を探索する。

7. 実施結果

日本を代表する大手企業の取り組むビッグデータの活用、社会インフラ事例など最先端の ICT 活用事例の紹介や新たな視点での社員教育の取り組みなどについて紹介は評価が高く、終了後のアンケートでは、授業現場で役立つが92%、他の教員にも紹介したいが96%であった。

特にビッグデータの活用事例紹介や日立コンサルティングによる就業力育成と大学教育のマッチングの説明は、反響が大きく休憩時間も質疑に及ぶほど盛況であった。また、日本を代表する大手企業の最新ICT事例戦略、人材育成など企業が求める人材像を知ることができ教育現場で役立つなどの意見が寄せられた。

主な意見を下に示す。

- ① クラウドやビッグデータ事業など、次世代社会システムの取り組みについて聞いたことが良かった。
- ② 求める人材像や現場の実態を知ることによって今後の教育を考える指針を得ることができた。
- ③ 社内教育システム、求める人材像の話は大学教育を見直していくうえで大変役立つ。
- ④ 会社員力（大人と話す、主体性、粘り強さ、学生時代までの変なプライドは捨てよう）等の話を社員から聞くことができ大変参考になった。
- ⑤ 大学生と社会人との交流の機会を設けるのは非常に良いと思った。また、非常に勉強になり良かった。



(最先端の ICT 活用事例の紹介)



(若手社員との意見交流)

平成25年度 第3回 大学教員の企業現場研修

1. 研修テーマ： 専門商社における「情報の価値化・知の協創に向けた社員教育」を学ぶ現場研修
2. 研修目的： 世の中の大量の情報を「知識」として活用し、新たな価値を生み出すために取り組んでいる人材育成の考え方や仕組みについて学び、その上で大学教育に求める人材像について若手社員との意見交流を通し大学教育の見直しを図るきっかけづくりとする。
3. 研修企業： 株式会社内田洋行
4. 開催時期： 平成26年2月21日（金）1日間
5. 参加者： 23名
6. 参加費： 無料

プログラム

- ① **会社概要と事業領域の紹介（10:00-10:20）**
内田洋行の会社概要・事業等について紹介します。
- ② **UCHIDA ライブオフィス見学（10:20-11:30）**
働き方と働く場の革新として、Change Working を自ら実践し、生産性が高く躍動的なワークスタイルの実現と省エネの両立に挑戦しているライブオフィスや目的に応じて柔軟に変化できる教室空間、ICTを活用した空間のモデル、アクティブラーニングスペース、フューチャークラスルーム等を見学・体験していただきます。
- ③ **産学連携によるキャリア人材育成の事例紹介（12:30-13:10）**
1966年に研修事業をスタートした豊富な研修実績を踏まえて、企業と大学のマッチング、産学連携によるキャリア教育の実践について事例を交えてご紹介します。
- ④ **新卒採用基準と社員教育プログラム等の紹介（13:10-14:20）**
新卒採用基準や社員教育プログラムを通じて、「情報の価値化と知の協創をデザインする企業」を目指して取り組んでいる人材育成の考え方や仕組みを紹介します。
- ⑤ **プロダクト企画開発業務の紹介と意見交換（14:40-15:50）**
企画の業務担当の若手社員から、業務の内容、必要なスキル、ICT企業の最新の課題や実態などについて紹介します。また、企画の業務の管理職から、求められる人材像、キャリアアップについての考えなどを紹介するとともに担当者との意見交換を行います。
- ⑥ **システムエンジニア業務の紹介と意見交換（15:50-17:00）**
若手及び中堅のシステムエンジニアから、業務の内容、必要なスキル、ICT企業の最新の課題や実態を紹介し、管理職から求められる人材像、キャリアアップについての考えなどを説明し、意見交換を行います。

6. 実施結果

教室空間モデルとして、アクティブラーニングスペースやフューチャークラスルームなどを見学・体験し、さらに人材育成の考え方、仕組み、管理者、中堅社員、若手社員との意見交流会を行ったことは評価が高く、終了後のアンケートでは、授業改善に役立つが95%、他の教員にも紹介したいが100%であった。

参考になった点として、企業の人材育成の考え方やしぐみを具体的に紹介いただいたこと、大学での学習が社会に出てからどうだったのか等について若手及び中堅、管理職と交流ができたこと、ターゲット型ではなくゾーン型を目指す指導・教育の必要性などの取組みは、大学における人材教育の在り方について深く考えさせられる内容であった等の意見が寄せられた。

主な意見を下に示す。

- ① 電子黒板を壁にした Futureclassroom など今後進むべき教育のヒントになり非常に有益だった。
- ② 学生のうちから1つのゾーンに絞って学びを深めるより多様なジャンルで活躍できるゾーン型の人材を目指すよう伝える必要性を感じた。
- ③ 社員教育、社員に対する考えなどを聞くことができ感服した。大学における教育の心構え、在り方について深く考えさせられた。大学FDにおいて報告し、教育の意義啓発に努めたい。
- ④ 学内でICTなど向上改善できるヒントが多数あったので大変貴重な研修になった。
- ⑤ 大学教育こそイノベーションしなければ若手人材育成にはつながらないと反省した。



(現場研修の様子)



(事業概要などの説明)

平成25年度 第4回 大学教員の企業現場研修

1. 研修テーマ： 技術開発から社会での活用までを担う ICT 企業の現場情報の研修
2. 研修目的： 本研修では、日本を代表する ICT 企業が社会に役立つ先端技術を開発し、その技術を用いて製品やサービスを提供している事例や幅広い復興支援活動について紹介し、企業の現場ではどのような人材を必要とし、そのために必要な教育とは何かを考える機会とする。また、新たな価値を生み出すために取り組んでいる人材育成の考え方や仕組みについて学び、その上で大学教育に求める人材像について若手社員との意見交流を通し大学教育の見直しを図るきっかけづくりとする。
3. 研修企業： 日本電気株式会社
4. 開催時期： 平成26年3月7日(金)1日間
5. 参加者： 25名
6. 参加費： 無料

プログラム

① 事業概要と事業戦略の紹介 (10:30-11:10)

人がより豊かに生きるための社会価値創造をめざし、インフラで未来をささえるNECの事業概要・事業戦略等をご紹介します。

② 最先端取り組み事例紹介と意見交換(1) 顔認証 (11:10-12:00)

世界最高水準の評価を持つ顔認証技術を活用した事例(USJでの年間パスポート、三井住友信託銀行のスマートフォン顔認証など)の新たな価値創造をご紹介します。意見交換を行います。

③ 最先端取り組み事例紹介と意見交換 (2)復興支援 (13:00-13:45)

東日本震災の復興をICTで支援する取り組み(コミュニティ形成、産業振興、ネットワークなど)や、社会に貢献する企業として復興を支援する活動(チャリティーコンサートなどの応援イベント、がれき撤去ボランティア活動など)についてご紹介し、意見交換を行います。

④ 社員教育制度について紹介と意見交換 (13:45-14:45)

社会にイノベーションをもたらし、常に成長し続ける人材を育成する社員教育制度について説明し、意見交換を行います。

⑤ 大学教育に求める人材育成について (15:00-16:00)

企業側が大学教育に求める人材教育、大学における教育と企業における研修の違いなどについて説明し、意見交換を行います。

⑥ 若手社員との意見交換 (16:00-17:30)

入社3年程度の若手社員から今までの経験を通じて、大学時代にやっておけば良かったと思うこと、大学時代に役立った経験・授業はどの様なことだったかなどについて発表し、意見交換を行います。

7. 実施結果

世界最高水準の評価を受けている顔認証技術の活用事例、震災からの復興をICTで支援する事例などをご紹介いただいたことや、豊かな社会を実現する社会価値創造を目指した社員教育の仕組み、プロジェクトマネジメントの考え方で見た「大学教育に求める人材育成」なども紹介いただいた。特にプロジェクトマネジメントの考え方で見た「大学教育に求める人材育成」は、参加者から大変ためになったなどの意見が寄せられた。入社1年、2年、5年目の若手社員との意見交流では大学に望むことや主体的に学ぶ意識改革を植え付けることの重要性を再認識させられ考えさせられた。

主な意見を下に示す

- ① 事業概要や戦略、最新技術の話は授業で役立てられる想いがした。
- ② 大学教育に求める人材育成の話は大変興味深く、納得できる内容であり有意義であった。
- ③ 学生に主体的に学ぶ意識をもたせることの重要性を痛感した。
- ④ 社員教育、人事制度など現場の生の情報を聞け大変良かった。
- ⑤ 現場研修では「気づき」と「学び」の連続で本当にためになった。
- ⑥ 様々な入社歴の若手4名の発表、意見交換はとても興味深かった。
- ⑦ 今後とも是非企業現場研修を継続拡大して欲しい



(現場研修の様子)



(若手社員との意見交流)